平成26年度　学校自己評価

新潟第一中学・高等学校　学校自己評価委員会

学校運営計画

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価
校内運営	学年、コース、分掌、教科の連携を密にする。	学年会は週1回、分掌会・教科会を隔月程度実施する。	A　ほぼ実施できた。 B　実施できないこともあった。 C　実施できないことが多かった。	A
		校務連絡会議を月２回程度実施し、医難コースを含む4コースの特徴を活かせるよう、運営方針を協議し学校全体の活性化を図る。	A　ほぼ実施できた。 B　毎月は行えなかった。 C　実施できないことが多かった。	A
指導法研究・研修	授業の工夫と改善を図る。また、常に研鑽に努める。	6年間または3年間を見通した各教科（科目）の年間指導計画を作成し、それを生かしたわかりやすい授業を行う。	A　作成した年間指導計画を生徒に配布し、それを活用して授業をすすめた。 B　作成した年間指導計画を生徒に配布した。 C　年間指導計画を作成した。	C
		教員相互の授業公開を行い授業のスキルアップを図る。	A　公開授業日等を設定し教員相互で参観し、指導法研究をすすめた。 B　公開授業日等を設定したが、教員相互の参観や指導法研究はできなかった。 C　公開授業日等を設定できなかった。	A
		校内外の研修会に参加し研鑽に努める。	A　校内研修は2回実施し、校外研修は延べ10人以上参加できた。 B　校内研修は1回実施し、校外研修は延べ5～9人程度の参加であった。 C　校内研修は実施できず、校外研修も5人未満の参加であった。	A
学校案内	小・中学生及びその保護者に情報を提供し本校の教育理念特色を理解してもらう。	学校見学会（中）、オープンスクール（高）、入試説明会(中高)を実施し、平均200人以上の参加を目指す。	A　平均200人以上の参加があった。 B　100人以上、200人未満の参加があった。 C　100人未満の参加であった。	B
		県内の小学4～6年生と中学3年生全員分のリーフレットを作成し配布する。また、学校案内を作成し小学校、中学校、学習塾等に配布する。	A　作成し配布した。 B　作成したが配布できなかった。 C　作成できなかった。	A
		学校行事毎にホームページを更新する。	A　すべて更新した。 B　ほぼ更新した。 C　60%くらい更新した。	B
進路指導	生徒の進路希望を達成させ大学進学率85%を目指す。 国公立大学合格者数70名以上を目指す	進路指導部を中心に、学年部と連携して生徒の進路目標達成のための指導を行う。	A　連携して指導できた。 B　ほぼ連携して指導できた。 C　連携して指導できなかった。	A
		進路志望調査を行い、目的意識を明確にさせる	A　計画通りに実施した。 B　ほぼ計画通りに実施した。 C　計画通りに実施できなかった。	A
		各教科の学習指導を強化し、志望校合格に必要なセンター試験の得点率を達成する。	A　目標通りに達成できた。 B　ほぼ目標通りに達成できた。 C　一部目標通りに達成できなかった。	C
		LHR等において計画的な進路学習・大学研究等を行い、自分の将来を考えられるようにする。	A　計画通りに実施した。 B　ほぼ計画通りに実施した。 C　目標通りには実施できなかった。	A
		進路講演会を行い、進路や人生について考えさせる。	A　計画通りに実施した。 B　ほぼ計画通りに実施した。 C　計画通りに実施できなかった。	A
		大学入試や大学についての適切な資料提供を行い、学級担任の指導に役立てる。	A　十分な情報が提供できた。 B　ほぼ提供できた。 C　提供できなかった。	A
		学年保護者会などを通じて、保護者へ情報を提供する。	A　計画通りに実施した。 B　ほぼ計画通りに実施した。 C　計画通りに実施できなかった。	B
		キャリア教育を充実させ、自己啓発をうながす。	A　指導計画を作成し実施できた。 B　指導計画は作成したが実施できなかった。 C　計画通りに実施できなかった。	A
		進学目標達成のために面談、相談を計画的に実施し、適切な進路指導を行う。	A　計画・実行できた。 B　一部計画実行できた。 C　ほとんど計画・実行できなかった。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価
生徒指導	教職員間の共通理解を図る。	全職員、学年との情報交換を密にし指導を徹底する。	A 十分達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	B
	保護者に学校の指導方針を理解してもらう。	保護者総会、学年保護者会、学級懇談会、学年通信等通じて学校の指導方針を理解してもらう。	A 十分達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	B
	基本的な生活習慣を確立し、豊かな人間性をもたせる。	授業時、HR、登下校指導など全ての教育活動を通じて基本的生活習慣の確立を図る。	A 十分達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	C
	交通安全指導を徹底しルールマナーを遵守させる。	年1回交通安全講話を実施する。また、関係資料を作成し配布する。	A 講話は実施し、資料も作成配布できた。 B 一方だけできた。 C どちらも実施できなかった。	A
	生徒がより良い学校生活を送るために早期に実態把握と解決に努める。	学期に1回全校生徒に学校生活に関するアンケート調査を実施し、その結果をふまえ、生徒に適切な指導を行う。	A ほぼ実施できた。 B 毎学期は行えなかった。 C 実施できないことが多かった。	A
保健環境	明るく清潔な学習環境を作る。	各学級ごとに決められた清掃区域を毎日清掃する。	A 全員できれいに清掃できた。 B 大体きれいに清掃できた。 C きれいに清掃できなかった。	B
		年間計画による大掃除を各学期に1回実施する。	A 年間計画通りに実施できた。 B あまり年間計画通りに実施できなかった。 C 実施できなかった。	A
	防災訓練を実する。	災害時に速やかに避難できるよう年1回防災訓練を実施する。	A 十分な内容で実施できた。 B 実施したが内容が不十分だった。 C 実施できなかった。	A
後援会 同窓会	保護者との連携を強化する。	保護者総会、学年別保護者会への保護者の参加60%を目指す。	A 平均して60%位の参加であった。 B 平均して50%位の参加であった。 C 平均して40%以下の参加であった。	B
		後援会機関誌「まなざし」を年3回発行する。	A 年3回発行できた。 B 年2回発行できた。 C 年1回の発行であった。	A
		学校行事への参加・協力を呼びかける。	A 十分な参加が得られた。 B 十分な参加が得られなかった。 C 呼びかけなかった。	B
	卒業生との絆を強める。	同窓会総会の案内を発行し、8月に同窓会総会を開催する。	A 発行し、開催できた。 B どちらかしかできなかった。 C どちらもできなかった。	A
教科指導 国語	読解力を身につけさせる。	現代文の評論の要旨・小説文の主題を理解させる。	A 十分に理解させることができた。 B 概ね理解させることができた。 C あまり理解させることができなかった。	B
		古典の内容を理解させる。	A 十分に理解させることができた。 B 概ね理解させることができた。 C あまり理解させることができなかった。	B
	表現力を身につけさせる。	自分の意見をまとめる力、要旨や主題をまとめる力を養成する。	A 十分に身につけさせることができた。 B 概ね理解させることができた。 C あまり身につけさせることができなかった。	B
	大学受験に則した実力を身につけさせる	基礎力テストや週末課題の成績を向上させる。	A 十分に向上させることができた。 B 概ね理解させることができた。 C あまり向上させることができなかった。	B
		大学入試センター試験をふまえた力を養成する。	A センター試験の平均点以上であった。 B センター試験の平均点レベルであった。 C センター試験の平均点以下であった。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価
教科指導 社会 地歴・公民	学年・科目に応じたきめ細かい指導を行なう。	各科目の指導方針、指導計画に準拠した適切な授業を展開する。 研究授業を通して、教科指導力を高める。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	A
		生徒の教科に対する関心を高めるため授業展開に工夫を加える。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	B
	基礎学力を向上させる。	基礎力テストや週末課題の成績を向上させる。	A 十分に向上させることができた。 B 普通に向上させることができた。 C あまり向上させることができなかった。	B
		適切な週末課題や長期休業課題を課す。	A 適切であった。 B ほぼ適切であった。 C 改善の余地があった。	A
	実践力を養成する。	過去の入試問題を研究させ、解説を加えることで実践力を身につけさせる。	A 大いに成果をあげた。 B ある程度成果をあげた。 C あまり成果をあげられなかった。	B
		大学入試センター試験の各科目（世界史、日本史、地理、現代社会、倫理、政治・経済、倫理政経）の平均点が全国平均を上回るようにする。	A 平均点以上であった。 B 平均点レベルであった。 C 平均点以下であった。	B
教科指導 数学	わかりやすい授業を実施する。	授業進度、指導内容を綿密に打ち合わせる。 研究授業、講習会等への参加を通して、指導力を高める。	A 実践できた。 B ほぼ実践できた。 C あまり実践できなかった。	A
	学力に応じた適切な指導を行う。	個々の生徒の学力・進路希望に応じた課題を工夫する。	A 適切な課題を作成、提示できた。 B ある程度適切な課題を作成、提示できた。 C 適切な課題を出すことができなかった。	A
	基礎学力を定着させる。	小テストや反復練習などで計算力の向上と基礎的・基本的内容の理解と定着をはかる	小テストの平均得点率が A 70%以上 B 50%以上70%未満 C 50%未満	B
	実践力を養成する。	校外模試の過去問や入試問題の演習を通して、応用力を養成する。	A 計画的な演習により模試で満足する成果を上げた。 B 計画的な演習により模試で成果を上げた。 C 問題演習はしたが、模試で成果がでなかった。	B
教科指導 理科	授業内容を充実させる	授業進度、指導内容を綿密に打ち合わせ授業に反映させる	A 実践できた。 B ほぼ実践できた C あまり実践できなかった。	A
		実験・観察を取り入れ、知的好奇心を引き出す	A 前年度より増えた。 B 前年度並みであった。 C 前年度より減った。	B
		教員間で相互に授業を公開し資質向上を図る	A 定期的に行い資質向上を図った。 B 公開授業を行った。 C 実施しなかった。	B
	基礎学力を向上させる	基礎力テストで平均得点 80%以上を目指し基礎学力を定着させる	A 80%以上 B 60%以上80%未満 C 60%未満	B
		レベルに合わせた週末課題を課す	A 共通課題に加えレベル別課題を工夫。 B 生徒が理解できる共通課題を与えた。 C 工夫せず与えた。	A
	進路希望達成に必要な学力を養成する	個別指導において過去の入試問題を研究させ解説を加える	A 前年度より丁寧に多くの生徒に実施。 B 前年度並みであった。 C 前年度より悪かった。	B
		大学入試センター試験結果において全国平均点に対して	A 平均点を上回った。 B 平均点と同じであった。 C 平均点を下回った。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価
教科指導 保健体育	集団行動を身につけさせる。	授業開始と同時に学校体操ができる状態にする。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	B
		集団の中で秩序ある言動がとれるようにする。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	B
	各運動を通して自ら進んで体力を高める。	各運動に応じた補強運動を組み入れる。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	A
	自分自身で又は他者と協力して練習や試合ができる。	球技や武道の技術を向上させるとともに、他者と協力して運動の楽しさと喜びを味わう	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	A
	健康の大切さを認識して、自らの健康なライフスタイルを考える。	生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、生活行動や環境を改善していく資質や能力を培う。	A 達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。	A
教科指導 英語	英語の基礎力応用力が身につくよう授業を工夫する。	授業進度、指導内容を綿密に打ち合わせる。 研究授業、講習会等への参加を通して、教科指導力を高める。	A 実践できた。 B ほぼ実践できた。 C あまり実践できなかった。	B
		英語の基礎力の定着を図る。	朝ﾃｽﾄの合格率が A 80%以上 B 60%以上80%未満 C 60%未満	A
		授業や、課題で多様な演習問題を行う。	課題、演習問題の A 計画、準備、実践とも適切であった B 計画、準備、実践ともほぼ適切であった C 計画、準備、実践のいずれかが不十分であった	A
	外部テストを利用し、英語の実用能力を養成する。	中学部では英検、高校ではGTECを利用し、英語の運用能力を高める。	英検、GTECの実施において A事前指導が十分で結果も満足のいくものであった B事前指導は十分であったが結果に一部不満が残る C事前指導が不十分であり結果にも一部不満が残る	B
中学部の指導 学力の向上	生徒個々の資質と学力に応じた指導を行う	毎週、週末課題を出すことによって学習内容の定着を図ると共に、家庭における学習習慣の確立を促す。家庭学習の時間は、1・2年生が2時間、3年生が3時間を目標とする。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	B
		定期考査・朝テスト・その他のテストにおいて合格点に達しない生徒に対して補習や再テストを行い、生徒全員の到達度を高める。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	A
	高校の学習内容との継続を意識した指導を行う	NRT・学力推移調査（ベネッセ）・アドバンストテストについて、進路指導部および各教科で結果を分析・評価し、改善点を明確にする。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	A
		学年ごとに英検・漢検・数検の合格目標級を設定し、意欲的に取り組ませると共に、事前の指導を徹底する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	A
	指導目標を明確にし、分かりやすい授業を心がける	研究授業・公開授業等に基づいて教員間の意見交換を積極的に行い、授業の内容や方法の改善を図る。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	B
人間性の育成	基本的な生活習慣の確立を目指し、躾を徹底する	LHRや道徳の時間を活用し、基本的な生活習慣・社会的なマナー・他者に対する態度の指導を徹底する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	A
	けじめのある、調和のとれた生活態度を育てる	中学部集会・学年集会を定期的に行い、生徒全体に統一的な生活指導を実施する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	A
		朝・昼休み・放課後に校内を巡視し、教員から積極的に声がけを行って、生徒の生活態度を指導する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	A
	健康や安全に気を配り、快適な生活が送れるよう指導する	生活日誌や個人面談によって生徒の悩みやクラスの問題点を発見し、その改善を図る。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	A
		行事やHR活動に積極的に取り組ませ、生徒間・クラス間の連帯意識を高めさせると共に、生徒の自主性を育てる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善を要する	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価
高校1年の指導 基本的生活習慣の確立	出席指導の徹底	生活リズムを整え、遅刻・欠席をしないように健康管理をできるようにさせる。	A 年間出席率99%以上 B 年間出席率97%以上99%未満 C 年間出席率97%未満	B
	規律ある集団活動	きまりを守り、特に時間厳守・頭髪服装を正すことの意義を理解し、規則正しい高校生活を送らせる。	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
		学年集会を年3回以上開催する。	A 3回以上実施 B 2回実施 C 1回実施	A
	第一高校生としての誇りの涵養	学校行事・HR活動の積極的参加と、部活動への参加を督励する。	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
		個人面談等により、一人ひとりを大切にする学級経営を実践する。	A 個人面談を1年間に4回以上実施 B 3回実施 C 2回実施	A
基礎学力の充実と学習意欲の向上	授業重視	授業を重視し、授業・土曜講座での内容の充実を図る。	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
	予習復習の徹底	家庭学習を計画的に行い、1日2時間以上の確保をさせる。	A 平均2時間以上 B 平均1時間以上2時間未満 C 平均1時間未満	B
	家庭学習の習慣化	学習記録表により、1週間の学習プラン作成と実施記録を取ることにより面談等に利用する。	A 十分活用できた B 活用できた C あまり活用できなかった	B
	基礎力テストや課題提出の重視	基礎力テストにより基礎・基本の定着を図り、課題の調整・内容の精選・未提出者の指導を徹底する。	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
	学習合宿	学習合宿を実施し、自学自習の習慣化を図る。	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
進路を思考する態度の育成	進路意識の啓発	系統的進路学習を通した、自己理解の深化と社会貢献意識の醸成	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
	進路情報の共有と、適切な進路指導	個人面談、ホームルームの指導、進路ガイダンス等を通して、目的意識の確立と進路目標の早期明確化に努める。	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	保護者との連携	学年保護者会・進路だより等により、進路情報を保護者に提供する	A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
高校2年の指導 明るく、規則正しい学校生活を送る	出席指導の徹底	生活リズムを整え、遅刻・欠席をしないように健康管理・生活管理をできるようにさせる。	A 年間出席率99%以上 B 年間出席率97%以上99%未満 C 年間出席率97%未満	B
	規範意識の向上	日常的に校則等を守る姿勢を維持させ、学校や社会の一員としての自覚を持たせる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	B
	第一高校生の中枢学年としての誇りと自覚	学校行事・HR活動・部活動等において、学校生活のリーダーとしての自覚を持たせる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	B
		個人面談等により、一人ひとりを大切にする学級経営を実践する。	A 個人面談を1年間に4回以上実施 B 3回実施 C 2回実施	A
		学年集会を年3回以上開催する。	A 3回以上実施 B 2回実施 C 1回実施	A
学習意欲の維持・向上と進路意識を高める	進路意識の啓発	計画的な進路学習の実施と進路意識の高揚を図る。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	A
	学習サイクルの定着	予習→授業→復習の学習サイクルを確立し、1日3時間以上の家庭学習時間を確保させる。	A 学年平均が3時間以上 B 学年平均が1時間以上3時間未満 C 学年平均が1時間未満	B
	自発的学習習慣の定着	講習・講座・学習合宿等を通し、さらなる学力向上を図る。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価
学校生活の充実	各種行事への積極的参加	修学旅行等の学校行事を通して、充実した学校生活を送り、HR・学年の結束力を高める。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	A
	保護者との連携	学年保護者会、学年通信などを通じ、保護者と連絡を密にし、情報の共有を図る。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	A
高校3年の指導 進路実現に向けた学力の向上	授業第一の徹底	授業を大切にする姿勢の醸成。 予習→授業→復習の徹底	A 達成されていた B ほぼ達成されていた C ほとんど達成されていなかった	B
		予習・復習の徹底を前提とした授業に対応出来る家庭学習の充実。	A 学年平均が4時間以上 B 学年平均が2時間以上4時間未満 C 学年平均が2時間未満	B
	講座・講習の充実	土曜講座・長期休暇中の講習の充実。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	A
進路目標に応じた適切な進路指導	生徒理解と適切な指導	進路情報の提供・進路学習の充実・個人面談による適切な学習指導。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	B
	模擬試験等のデータの有効活用	校外模試等の成績推移や進路希望を示した個人成績表を面談等に活用し適切な進路指導にあたる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	A
	多様な入試体系への対応	AO入試・推薦入試・一般入試、センター試験、私大入試、国公立入試等、多様な入試制度に対する体系的な指導体制の確立。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	B
社会の一員として自覚ある行動を促す	出席指導の徹底	生活リズムを整え、遅刻・欠席をしないように健康管理・生活管理をできるようにさせる。	A 学年出席率が99%以上 B 学年出席率が97%以上99%未満 C 学年出席率が97%未満	B
	最高学年の自覚と行動	部活動や学校行事でのリーダーシップ発揮を積極的にサポートし、クラス、学年としての連帯感を培う。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	B
		新潟第一高校生としての自覚と誇りの育成。	A 達成できた B ほぼ達成できた C ほとんど達成できなかった	B